

# 4 経済の成長と幕政の改革

ばくせい

## 1 江戸時代の農具の進歩 (『老農夜話』 東京大学史料編纂所蔵)



## 2 備中ぐわ (左) と、千歯こき (右)



それぞれどのような作業をしているのかな。



114 ~ 115-1

● 第4章 近世の日本と世界

96

- B4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。

12 <sup>しょうぐん</sup> 将軍のおひざもと、天下の台所

▶ 経済の発達と都市の<sup>はんえい</sup> 繁栄



学習  
課題

<sup>えど</sup> 江戸時代には、産業や流通がどのように発達し、社会にどのような<sup>えいぎょう</sup> 影響<sup>あた</sup> を与えたのでしょうか。

<sup>しんでん</sup> 新田開発と農業

戦乱が治まると、<sup>ねんぐ</sup> 年貢の増収を図る

<sup>ばくふ</sup> 幕府や<sup>はん</sup> 藩、生活の向上を願う<sup>ひやくしょう</sup> 百姓が、<sup>しんでん</sup> 新田開発を盛んに進めました。開発を<sup>う</sup> 請け負う<sup>ちょうにん</sup> 町人も現れ、耕地面積は急速に広がりましたが<sup>3</sup>、開発のしすぎで<sup>こうずい</sup> 洪水が起こることもありました。

<sup>きんき</sup> 近畿地方の進んだ農業技術が各地に広まり、農具では、田畑を深く耕せる鉄製の<sup>びっちゅう</sup> 備中ぐわ<sup>2</sup>や、<sup>せん</sup> 千歯こき<sup>2</sup>、<sup>とうみ</sup> 唐箕が使われるようになって<sup>1</sup>、作業の<sup>ふんにょう</sup> 能率や生産力が上がりました<sup>3</sup>。肥料も、<sup>ふんにょう</sup> 糞尿 <sup>p.127</sup>→ や<sup>そうもくばい</sup> 草木灰 <sup>p.62</sup>← のほかに、<sup>ほしか</sup> 干鰯や<sup>あぶらかす</sup> 油粕<sup>1</sup>などを<sup>こう</sup> 購入して用いるようになりました。また、<sup>しょう</sup> 農法を紹介する書物も出版されました。

- B4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。

① <sup>ほしか</sup>干鰯は、いわしを日干しにしたもので、<sup>あぶらかす</sup>油粕は、<sup>なたね</sup>菜種などから油をしぼったかすのことです。

**産業と流通の発達** 一方、<sup>だんぼう</sup>建築の資材や暖房用の燃料の需要が増えたことから、<sup>じゅうよう</sup>林業が盛んになりました。<sup>ばっさい</sup>木を伐採し、加工する道具や技術が改良され、材木や薪・炭を扱<sup>まき</sup>う商人も増えました。水産業では、<sup>ぎよもう</sup>漁網の改良で<sup>ぎよかくりょう</sup>漁獲量が増え、<sup>あみもと</sup>網元による<sup>だい き ぼ</sup>大規模な経営も行われました。魚は肥料や油の原料としても利用され、<sup>くじゅうくりはま</sup>九十九里浜（千葉県）のいわし漁、<sup>ちば</sup>土佐（高知県）や<sup>きい</sup>紀伊（和歌山県）のかつお・くじら漁、<sup>えぞち</sup>蝦夷地の<sup>さけ</sup>鮭・<sup>にしん</sup>にしん漁<sup>4</sup>などが盛んになりました。しょう油や<sup>つけもの</sup>漬物の消費が増えるにつれて、<sup>えんでん</sup>塩田による塩の生産も発達しました。また、各地の<sup>2</sup>鉱山の開発も進み、幕府は、<sup>えど</sup>江戸に設けた<sup>きんざ</sup>金座・<sup>ぎんざ</sup>銀座などで、<sup>←p.87</sup>金貨・銀貨・<sup>せん</sup>銭（銅）貨をつくって全国に流通させました<sup>7</sup>。

年貢米は、幕府や藩の財政を支える重要な商品として、<sup>おおさか</sup>大阪や江戸に送られました。綿・<sup>なたね</sup>菜種・<sup>あい</sup>藍な

- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

どの栽培さいばいが各地に広まり、養蚕ようさん・織物業が盛んになると、輸送のための街道かいどうがにぎわいました p.116 →  
水上の輸送路として、江戸・大阪間のほか、日本海側から江戸・大阪へ運ぶ東まわり航路や西まわり航路も開かれ巻末① →、米などの重い荷や各地の特産物が廻船かいせんで運ばれました<sup>5</sup>。

② 佐渡金山さどきんざん（新潟県）、石見銀山いわみぎんざん（島根県）、生野銀山いくのひょうご（兵庫県）、別子銅山べっしどうざん（愛媛県）、足尾銅山あしおとちぎ（栃木県）などがあります。

**にぎわう都市** 商業や交通が発達すると、城下町・港町・宿場町しゆくばまち・門前町もんぜんまちなどがにぎわい、なかでも江戸・大阪・京都きょうとは三都さんととよばれました。江戸は、政治の中心地として「将軍のおひざもと」とよばれ、18世紀の初めには人口100万人をこえました p.126 →。大阪は、商業の中心地として「天下の台所」とよばれ、各藩の蔵屋敷くらやしきに運び込まれた年貢米 p.122 →や特産物の取り引きで発展はってんしました<sup>5</sup>。京都は、伝統ある文化の中心地で、西陣織にしじんおりなどの高度な手工しゅこう

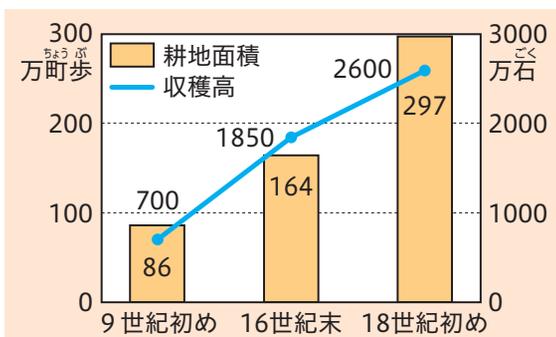
- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

ぎょう  
業が発達しました。

都市では、問屋・仲買などの商人が力を強めまし

た。同業者ごとに株仲間をつくり、幕府に営業税を納めるかわりに、営業の独占を許され、大きな利益を上げました。金・銀・銭の貨幣を交換する両替商も増え、江戸の三井<sup>6</sup>や大阪の鴻池のように、財政の苦しい藩に金を貸し付ける有力な商人も現れました。

↓ 3 全国の耕地面積と  
収穫高の移り変わり



↓ 4 蝦夷地のにしん漁 (『松前檜山屏風』  
函館市中央図書館蔵)



- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

5 にぎわう大阪の港 (『菱垣新綿番 船川口出帆之図』 大阪城天守閣蔵)



6 三井家が江戸に開いた越後屋呉服店 どのような売り方をしているでしょうか。



7 江戸時代に使われた主な貨幣



ふりかえる

- ステップ1 江戸が「将軍のおひざもと」、大阪が「天下の台所」とよばれたわけを確かめよう。
- ステップ2 商人が、力をつけていったのはなぜか説明しよう。

- B4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。